

「住用中学校の三太郎太鼓伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立住用中学校

2 学年・人数

1年生から3年生（計7人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

5月17日（水）、6月29日（木）、7月14日（金）、9月15日（金）
9月19日（火）、10月6日（金）10月11日（水）、11月6日（月）
11月10日（金）（住用中学校体育館）

(2) 発表の日時・場所

11月9日（木）奄美市音楽発表会（奄美川商ホール）
11月11日（土）住用保育所住用小住用中合同学習発表会
（住用中学校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

三太郎太鼓（さんたろうだいこ）

(2) 由来

三太郎太鼓は40年ほど前、長野県の和太鼓集団田楽座が奄美公演を行ったのをきっかけに東城中学校2年生が立志式で始めたのが原型である。東城小中学校及び住用連合青年団で引き継がれていく中で奄美六調のリズムを取り入れるなど次第に地域性を織り込みながら曲調が変化した。15年ほど前に後継者不足・指導者不足により途切れていたものを10年前住用中が引き継ぐ形で再興した。

(3) 構成等

大太鼓1（2人）、中太鼓6（6人）、小太鼓3（3人）計10人で演奏。三太郎太鼓・六調太鼓の2段構成。三太郎太鼓のゆったりとした古式を帯びたリズムが次第に熱を帯び、六調太鼓の本能に訴えかけるような激しいクライマックスへとつながる。三太郎太鼓の小太鼓による静かな出だし、六調太鼓の勇猛な出だし、終盤の盛り上がり、終演の余韻を味わえる構成になっている。

5 保存会や地域との連携の具体

三太郎太鼓指導保存会指導者が本地区に在住。仕事と調整を図りながら本校の指導のため来校している。発表の場にも訪れ参観・指導を行った。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

年々後継者たるべき生徒数が減少しており、本年度は職員4人も加わって演奏した。初めての体験に苦労した職員もいたが、最終的にはなんとか完成にこぎ着けた。今後更なる構成員の減少も予想される。地区の学校との連携も視野に

入れ存続につなげたい。また、地域の指導者不足も懸念される。市の音楽発表会では児童生徒が主体となって発表することが条件ではあると思うが、地域の青年も含めて活動をしていかなくは継続が危ぶまれる現状である。指導者は1人、なんとか指導の約束を取り付けたが、指導者自身の仕事との兼ね合いもあり、急遽欠席することがあった。過去の動画を参考にして活動し、過年度に指導を受けた職員の助言でしのいだが、できれば複数の指導者の関わりで安定した運営を心がけたい。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【生徒】

- ・ 伝統を引き継ぐことができ良かった。
- ・ 地域の方が喜んでくださって自分もうれしくなりました。
- ・ はじめはきちんとできるか不安だったけど、うまくできるようになってよかったです。

【教職員】

- ・ 子供たちと一緒に取り組むことができ、自分も舞台に立ち、地域の伝統芸能に触れる機会になったと同時に、思い出を共有できたことは自分にとっても大変充実感が残る。
- ・ 子供たちにとって伝統を引き継ぐとともに地域の中学生の通過儀礼ともなる取組だと思う。更に発展させていくこと、独自性を磨いていくことを心がけて来年の取組につなげたい。

【保存会から】

- ・ 少ない人数でもその時の状況に応じて引継ぎ、発展させていきたいと思う。子供たちにとって中学生時代の思い出になってくれたらありがたい。いずれはこの中から後継者が生まれてほしい。

【地域の方から】

- ・ 地域の子供たちが元気に発表してくれる姿をありがたいと思う。
- ・ 少ない人数でも一人一人に光が当たる住用中の環境に感謝したい。
- ・ 卒業した子供たちも三太郎太鼓の取組が思い出になっている。
- ・ ずっと続いてこの地区の伝統になってほしい。